

採用者企画実施報告

採用者 岡山大学 農学部 橋本 望
採用団体 国際協働プロジェクト(ISAP)
企画名 第六回国際協働プロジェクト
企画内容 フィリピン共和国パナイ島南部イロイロ州イロイロ市にて
交流活動、フィールドワーク活動、協働活動 他



国際協働プロジェクト(ISAP) (第6回 2015 年度版) 実行目的

この国際協働プロジェクト(International Student Action Project)は「世界平和達成への貢献」を理念に掲げ、その為に必要な活動を様々な御協力者と共に働きかけながら作り上げ、実行することを目的とした国際協力活動を行うものです。

国際学生協会(ISA)は 1934 年に発足した団体です。そして、第 2 次世界大戦という悲惨な体験によって、当協会は世界平和の重要性への認識を得ました。「世界平和達成への貢献」という理念に基づいて行われる私達の活動は、既に 81 年の時を経ています。その中で活動の一環として、私達は 61 回の国際学生会議を開催しています。この会議に参加した学生一人一人の心の中に「世界平和達成への貢献」という理念が確実に根付き、人類の相互理解への寄与は、大いに価値のあるものであると自負しています。しかしそれと同時に、私達は学生としての「行動」の重要性を痛感しています。61 回それぞれの会議の中で感じたことや考えたことを、行動により実社会に還元しなければならないのです。つまり、世界平和達成へのより大きな貢献の為に、議論の枠を越え、平和へ向けたより主体性を伴った行動が必要不可欠なのです。

今までに足りなかったこの「行動」を推進していく本プロジェクトにおいて、私達は次の実行目的を掲げることと致しました。

『自己の成長に伴う他者の成長への貢献』

「世界平和達成への貢献」という壮大な理念のもと、私達は全力で「学生に何ができるのか」という問いかけに立ち向かい、この問いかけに対して私達は成長を志向します。なぜなら、将来を担う私達学生が自らの手で課題を見つけ解決策を模索し実行に移していくことで得られる成長が、世界平和達成への大きな推進力になるということを ISA の長い歴史の中で実感してきたからです。本プロジェクトを実践していく中で、私達の活動に関わる全ての人々が、私達の活動から何らかのきっかけを得てさらに成長し、彼らからもらう刺激を糧に私達もさらに成長する。そうして相互成長を促進し影響の輪を広げていくことによって、世界平和達成への基礎を築いていくのです。私達学生は今すぐ社会的に大きな影響を与えることはできませんが、10 年後 20 年後を見据えた時、私達の活動が着実に社会の大きな財産となっていると信じます。

私達個人の成長が ISAP という組織の成長に繋がり、それが他者への成長に繋がる。そうして学生一人一人の小さな力が世界平和達成への大きなうねりとなることを切に願います。そのための第一歩を、私達は踏み出したのです。



活動概要

フィールドワーク

活動内容

・Dumpsite Tour

初めに LOOB スタッフの方からカラフナンのゴミ山の歴史、イロイロ市のゴミの排出量、またリサイクルのシステムについて教えていただき、その後実際にスモーキーマウンテンを訪れました。ゴミを拾うことで生計を立てているウエストピッカーの方の家にも訪問し、質問をさせていただきました。

・City Tour

LOOB スタッフの方のツアーの元でイロイロ市を観光しました。フィリピンが戦争で負った傷や、大学や市場の様子を細かく教えてくださいました。

感想

ISAP の主活動はレクチャーやワーク活動ですが、フィールドワークも私たちにとってとても印象的なものとなりました。まずスモーキーマウンテンへの訪問ですが、これは容易に想像を超えるものとなりました。大きさや臭い、ウエストピッカーの方々の雰囲気。衝撃を受けることも多々ありましたが、感銘を受けることもたくさんありました。特に彼らの笑顔には私たちが抱いていた暗いイメージが吹き飛ぶ程の生命力の強さを感じました。私たちが現在日本で過ごしている日常は非常に便利なものであふれており、彼らの日常が不便であるように思われます。しかし彼らの生活は幸せであふれている気がしました。私たちは彼らの生活している姿を見て本当の「生き方」を肌で感じとることができました。

次にシティツアーですが、こちらも私たちにとって忘れることのない経験となりました。大学の様子は、日本の大学よりも神聖な雰囲気をまとっており勉強をしにくる場所であると、本来の大学の姿を感じました。市場は様々な果物や新鮮な魚を売っている姿を目にし、生き生きとした感じがしました。そして最後に歴史ですが、私たちは日本人がフィリピン人にした戦争の傷跡を目の当たりにしました。日本にいる間、私たちはそのような事実を知る機会があったでしょうか。私は母国の歴史を彼らに教わったこと、何も知らされていない日本人がいる事実をそこで実感しました。



協働活動

活動内容

・小学校訪問 (nutrition lecture)

栄養失調の子供たちを集めたクラスで、私たちは、好き嫌いをしないこと、良く噛むことの大切さ、運動の大切さ、手洗いと歯磨きのやり方について教えました。年齢、学年がバラバラなので、内容が、低学年には伝わるように、高学年には飽きさせないように伝える方法をフィリピン人スタッフと一緒に考えました。

・Week end activity

学校ではなく、私たちがホームステイをさせて頂いている村で青空教室をしました。小学校訪問の時

と同じ、栄養素、良く噛むことの大切さ、手洗いと歯磨きのやり方に加え、日本とフィリピンの食の環境の違いについて教えました。日本の食環境の特徴で、孤食を取り上げました。

・Work 活動

Work 活動では、小学校の近くにあるデイケアセンターに、トイレとキッチンを作りました。何もないでぼこした場所に土を運ぶことから始め、セメントも自分たちでスコップを使って作りました。蒸し暑い中、フィリピン人と日本人がともに一つのものを作ることは、まさに協働だなと感じました。

感想

小学校訪問での nutrition lecture では、歯磨きを担当しました。歯磨きをどうしたら楽しくすることができかに重きを置いて、フィリピン人キャンパーと考えました。最初は、ただ説明するだけにしようと考えていたのですが、ペアの子が、ただ説明するだけでは飽きるから、クイズにしたほうが良いとアドバイスをくれました。二人でクイズを考えているときに、一番協働を感じられて、私の心に残っています。実際にレクチャーが始まり、子供たちの歯を見てみると虫歯で真っ黒になっている子もいました。私たちがした活動で虫歯が治るわけではありませんが、少しでも歯を磨く習慣がついてくれること願っています。Week end activity では外での活動でしたので、子供たちの注意を引くのに苦労しました。しかし、私たちがきちんと声かけをすると、真剣に聞いてくれる子供たちの素直さにとても心打たれました。孤食というテーマは子供にはわかりにくかったかもしれませんが、フィリピンに行って一番心惹かれた所が、家族とのつながりの深さだったので、そのフィリピンのよさを、子供たちはもちろんのこと一緒に活動をしたフィリピン人キャンパーにも伝えられてよかったです。Work 活動では、現地の方たちの生きる力を感じました。私たちと同年なのに、フィリピン人キャンパーはセメントの作り方から、ブロックの積み方まで何でも知っていました。そして、なによりみんなで一つのものを作るという過程がとても協働を感じることができました。Work 活動で作ったトイレとキッチンには、私たち全員の名前も彫ったのでこの名前をみて、私たちのことを思い出してくれるとうれしく思います。



交流活動総括

活動内容

・スクールアクティビティ

子供たちに日本の文化についてレクチャーを行いました。国内から準備を再三に渡り行い、現地の子供たちに授業形式で、日本のことについて伝えました。

・フレンドシップナイト

ホームステイ先の方々に感謝の意を伝えるための会で、日本料理などを振る舞ったり、ダンスを披露したりしました。

・ワークショップ

フィリピン人のキャンパーのみなさんと共に、日本とフィリピンの文化の違いなどについて話し合いました。特に日本の抱える食問題である”コシヨク”について取り上げました。

感想

ホームステイや、friendship night、workshop、school activity などのフィリピン人との交流活動を通して、学んだことは何よりフィリピン人の人間性、フィリピンの文化です。そして、自分たちからもフィリピン人の方々に日本の素晴らしさ、日本の文化、そして日本人の人間性について伝えることができたと思います。フィリピン人のキャンパーさんや、スタッフの方々をはじめ、小学校の子供たち、ステイ先の家族のみなさんと、いろいろな話をしたり、共に体を動かしたりして、楽しい時間を共に過ごす中で、自分たちと彼らとの間に共通項が出来ていったと感じています。この共通項は ISAP の世界平和達成への貢献を実践によって実現するという理念に即していると考えます。この経験が将来、どう役立っていくのか、現地のフィリピン人の方々の中でどういう変化が起きたのか、またどういった変化が起こっていくのかは分かりません。しかし、彼らと自分たちとの間に共通項があることは確かです。この繋がりを忘れることなく、これからの人生に活かしてほしいと思います。



実行委員長総括

実行委員長として第 6 回国際協働プロジェクト(以下、ISAP06)に携わった一年を振り返りました。

本プロジェクトの目標の一つとして、「成長」を掲げているが、今年のメンバーをみて本当に成長を感じることが多くありました。初めてメンバーの顔合わせをしたときには、緊張もあり、勉強会なども堅くなってしまいました。しかし、会議の回数を重ねるごとに、お互い遠慮せず意見を言い合う仲になり、積極的に発言していこうという姿勢が見られました。また、個人の課題を共有することで、助け合い達成に向け取り組みました。この活動を通してライバルといえる仲間と出会い、切磋琢磨することで共に成長することができたと思います。

一方で、ISAP06 が与えた影響はどうだったかと考えると、まだ多くの課題は残されています。国外活動では、言葉の壁や経験の差によって十分に力を発揮できない場面がありました。小学校でのレクチャーを準備するときなど、経験豊富な LOOB スタッフに頼ってしまいがちでした。もちろん、協働を掲げるプロジェクトであるため、協力は不可欠ですが、ISAP メンバーが意見を出せずにいたことは反省点です。今回は、初めて海外に行くメンバーもあり、慣れない環境の中でプロジェクトを成功させるのは簡単ではありませんでした。事前に勉強会をしたとはいえ、インターネットなどからの情報だけでは不十分であるということを強く実感しました。やはり、実際に現地に行った人から話を聞くことは大切です。

これらの反省を生かし、今後も ISAP は、学生にできることを模索し続け、更なる躍進を遂げ、関わるすべての人々にとって大きな学びと成長の機会となっていくでしょう。